

宇都宮市立横川中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の授業の復習をしている。」の肯定割合は67.8%で県より4.5ポイント上回っている。「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている。」の肯定割合は68.9%で県より6.5ポイント上回っている。家庭での学習習慣は、概ね良好である。今後も家庭と連携・協力しながら、家庭学習の習慣化を図っていきたい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定割合は88.9%で県より7.4ポイント上回っている。「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の肯定割合は97.8%で、県より5.4ポイント上回り、「いいえ。」と答えた割合は0%である。児童一人一人が、学習に対してやる気をもって取り組んでいる姿がうかがえる。今後も、この前向きな気持ちを大切にしながら、学習環境や学習形態を考えていきたい。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合っってクラスのきまりなどを決めていると思う。」「学校でのきまりを守っている。」「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる。」の肯定割合はすべて85%を上回っている。学校のきまりを守りながら、楽しく充実した学校生活を送っている児童が多いことがうかがえる。

○「自分もっている能力を十分に発きたい。」の肯定割合は86.7%で、県より0.1ポイント上回っている。「しょう来のゆめや目標もっている。」の肯定割合は90.0%で、県より2.2ポイント上回っている。今後も、将来への向上心を大切にしながら、意欲的に学習に取り組むことができるような学習環境を整えていきたい。

○「家の人と学習について話をしている。」の肯定割合は85.6%で、県より9.1ポイント上回っている。家庭でも学習についての話題が上がっていることが分かる。

○「次の教科などの学習は好きですか。」「次の教科などの授業の内容はよく分かりますか。」の質問では、国語、社会、算数、理科の主要4教科全てにおいて肯定割合が、県の割合とほぼ等しいか県よりも上回っている。学校の4教科の学習が好きな児童が多く、授業の内容についてもよく理解していることが分かる。

○「漢字の読みや言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」「わからない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」の肯定割合は、県の肯定割合よりも上回っている。今後も、授業や家庭学習で計画的に辞書を活用したり、社会科の学習で地図帳をたくさん使って国名や地名を調べるようしたりするなど、自分から進んで国語や社会の問題について調べたり考えたりすることができるようにしていきたい。

●「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。」の肯定割合は85.6%で、県より4.3ポイント下回っている。声掛けを多くし、励ましたり賞賛したりして、達成感や成就感を味わわせるようにすることで、児童一人一人の意欲や自信につなげていきたい。

●「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」の肯定割合は70.0%で県より4.6ポイント上回っているもの、「学校の授業時間以外にふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。」の質問では、30分以上読書をしている児童の肯定割合は、県より高いものの、「全くしない。」と答えた割合は18.9%で、県より2.0ポイント上回っている。感染症対策のため、図書館の貸し出し時間や方法を制限していることも関係しているかもしれないが、読書の楽しさやおもしろさを伝える取組を継続していく。今後も、「振り返りカード」や「自主学習ノート」を活用することで、復習や音読、読書などの学習に意識的に取り組ませながら、さらに家庭学習を充実させていきたい。